

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 3月

「彼を知るために」 「天のコミュニケーション・システム（Ⅱ）」 「地はその栄光によって」 「レモンゼリー」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

天のコミュニケーション・システム (II) 4
聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 8
That I May Know Him

現代の真理

「地はその栄光によって」 40
神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事

レモンゼリー 46

お話コーナー

「裏切りと逮捕 (I)」 48

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年2月3日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty images on Front page, Sermon View
on page 40

キリスト者の特権

神の事柄において豊富な体験を持つことは、すべてのキリスト者の特権であり義務である。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」とイエスは言われた（ヨハネ 8:12）。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」（箴言 4:18）。信仰と服従は、一步ごとに、「少しの暗いところもない」世の光に、魂を密接に結びつける。義の太陽の輝く光線が、神のしもべたちの上に照り輝く。そして彼らは、その光を反射しなければならない。ちょうど天空の星が、天には大いなる光があつて、その栄光によって自分たちは輝いているのだということを、われわれに告げているように、キリスト者は、自分たちが賛美し、倣うべき品性をお持ちの神が、宇宙の王座におられるということを、あらわさなければならない。神の霊の恵み、神の品性の純潔と聖潔とが、神の証人たちによってあらわされるのである。

パウロは、コロサイ人への手紙の中で、神の子供たちに与えられる豊かな祝福について述べている。彼は言う。わたしたちが「絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍（ぶことである）」（コロサイ 1:9-11）。

また彼は、エペソの兄弟たちが、キリスト者の特権の高さを理解するに至ることを望むと書いている。彼は、至高者のむすこ、むすめとして彼らが持つことのできる驚くべき力と知識を、非常に意味深い言葉で示している。彼らは、「御霊により、力をもって……内なる人」が強くされ、「愛に根ざし愛を基として生活することにより、すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知」ることができる。しかし、使徒が、「神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように」と祈るときに、この特権は最高潮に達するのである（エペソ 3:16-19）。

ここに、われわれが神の要求に応じるときに、われわれの天の父の約束を信じる信仰によって到達することのできる最高点が示されている。われわれは、キリストの功績によって、無限の力を持たれるおかたのみ座に近づくのである。…父なる神は、み子に聖霊をあふれるばかりにお与えになった。そして、われわれもまた、霊に満たされることができるのである。（各時代の争闘下巻 205-207）

第9課 天のコミュニケーション・システム(Ⅱ)

祈りが応えられるための条件

1. 信仰

真の祈りと信仰は密接につながっており、両者は切り離して存在することはできません。「信仰がなくは、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」(ヘブル 11:6)。

2. 罪の告白

わたしたちを神から引き離すものは罪です。ですから、もしわたしたちが神から罪を隠そうとするなら、その祈りは無駄になります。神はわたしたちに関する全てのことをご存じであり何も神から隠すことはできません。

「もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はお聞きにならないであろう」(詩篇 66:18)。

「耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈りでさえも憎まれる…その罪を隠す者は栄えることがない。言い表してこれを離れる者は、あわれみを受ける」(箴言 28:9,13)。

3. 御心になりますように

わたしたちが利己的に祈りを捧げたり、自分たちの益とならないことを求めたりするならば、わたしたちの祈りは応えられずにいるでしょう。「求めても与えられないのは、快楽のために使おうとして、悪い求めかたをするからだ。」(ヤコブ 4:3)。

もし、わたしたちが神の御旨に従って求めるならば、神がわたしたちの祈りを聞いて下さるという保証があります。「わたしたちが神に対していただいている確信

は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れてくださるということである。」(第一ヨハネ 5:14)。

4. 自分自身が必要を感じなければならない

わたしたちはまた、自分自身が必要を感じなければなりません。もしわたしたちが自分たちの重大な必要性を自覚せずに神に祈るなら、わたしたちの祈りは、宮で自分が非常に善であることを感謝したパリサイ人の祈りと同じようなものになります。彼の祈りは宮の天井より上にのぼることはありませんでした。近くには自分の必要のうちに叫んだ取税人がいました。「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」彼の祈りは聞かれました。

「義に飢え乾いている人たちは幸いである。彼らは飽き足りようになるであろう。」(マタイ 5:6)

神は、わたしたちが求めることを待っておられます。このお方はわたしたちを助けたいと思っておられますが、わたしたちが自発的にご自分に心を開くことを待っておられるのです。

5. イエスの御名によって祈らなければならない

「何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。」(ヨハネ 14:14)。

イエスの御名によって祈るということは、祈りの最初と最後において単にイエスの名にふれるということではない。それは、キリストの霊と意思によって祈るということであり、キリストの約束を信じ、キリストによる許しの恵みに頼ることであり、そしてキリストの命を生きるということです。「キリスト・イエスにあつていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい。」(ピリピ 2:5)

祈りの力

熱心な祈りを通してわたしたちが意のままに使える潜在的な力は甚大です。神を勤勉に求める人のために天がどれほど蓄えているかは、理解することすらできません。

「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求め、また思うところの一切を、はるかに超えてかなえて下さることができるかたに」(エペソ

「信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ち上がらせてくださる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それも許される。だから互いに罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈りは大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:15, 16)。

聖書の中には、祈りの力の具体例が豊かにあります。

天候が変わりました。「エリヤは、わたしたちと同じ人間であつたが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた」(ヤコブ 5:17,18)。

死んだ者がよみがえりました。「ペテロはみんなの者を外に出し、ひざまずいて祈った。それから死人の方に向いて『タビタよ、起きなさい』といった。すると彼女は目を開け、ペテロを見て起きなおった。」(使徒行伝 9:40)。

祈りによりライオンの口が閉じられました。「ダニエルは、その文書が署名されたことを知って家に帰り、二階の部屋の、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前から行っていたように、一日三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した…わたしの神はその使いをおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。これはわたしの罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです」(ダニエル 6:10,22)。

祈りが答えられたという経験は尽きません。祈りに伴う素晴らしい奇跡や経験について、多くの書物が記され、多数の証がなされてきました。

だれのために祈るべきだろうか？

第一に、わたしたちは神の民のために、そして主の使命者や牧師として働く人々のために祈らなければなりません。「絶えず祈りと願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈り続けなさい。また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい」(エペソ 6:18,19)。

また、わたしたちは家族や友人という境界の向こうにいる人々のために祈るように訓告されています。「しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害をする者のために祈れ」(マタイ 5:44)。

いつ祈るべきか？

わたしたちは、いつでも、どこでも、自分の心を神のみ許へ引き上げることができます。

「絶えず祈りなさい。」(テサロニケ第一 5:17)。

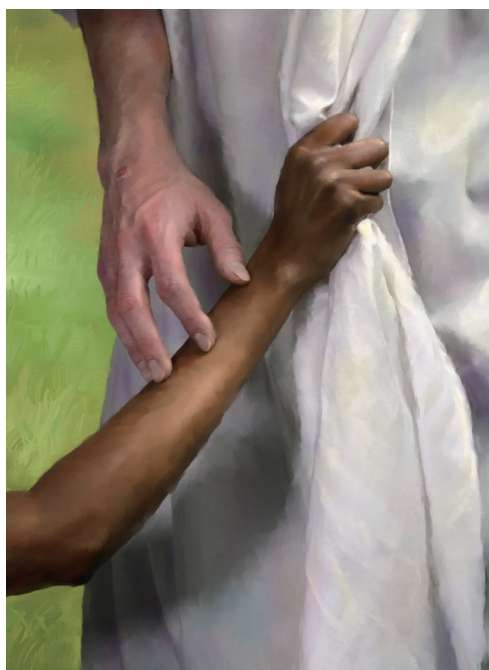
これは、絶えずわたしたちが祈りのうちにひざまずいているようにという意味ではありません。しかし、いついかなる時にも、あらゆる状況の下で、自分の心の戸を天へ向かって開いているべきです。しかしながら、祈りのために特別の時間をとっておくのは良いことです。「夕べに、あしたに、真昼にわたしが嘆きうめれば、主はわたしの声を聞かれます」(詩篇 55:17)。

こうした聖なる時間は、何ものにも奪われてはなりません。また心からの祈りをしない日があってはなりません。祈りは、わたしたちを天父の御許へ近く保つ力であり、こうして、あらゆる予期せぬ試練の時に、花が太陽に向くのと同じくらいごく自然に、わたしたちの思いがこのお方へ向くようにさせるのです。

「わたしは日ごとにあなたをほめ、代々かぎりなく名をほめたたえます。」(詩篇 145:2)。

彼を知るために

That I May Know Him



3月

侮られ捨てられ

「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。」(イザヤ 53:3)

30年間の地上のご生涯で、神のみ子の心を引き裂いた苦悩のその意味を理解している人は何と少ないことであろう。かいばおけからカルバリーへの道には悲しみと悲哀が付きまとっていた。主は悲しみの人であり、人間の言葉では描写できないほどの心痛に耐えられた。心は実際「わたしにくだされた苦しみのような苦しみが、また世にあるだろうか、尋ねて見よ」(哀歌 1:12)ということもおどきになった。主の苦しみは魂の最も深い苦痛であった。無限の神のみ子、そのお方の苦悩に対して、だれが心の底からの同情心を持つことができたであろうか。御子は罪を全くの嫌悪感をもって憎んでおられたが、ご自身の魂に全世界の罪を集め、罪を犯した者の刑罰に苦しみながらカルバリーの十字架への道を歩まれたのである。罪がないのに主は有罪の刑罰を負われた。潔白であるのに、主は神の律法の違反の刑罰を負うためにご自身を提供された。一人一人の魂の罪に対する刑罰を、無限であられる神のみ子が負われた。一人一人の罪の責任が世の救い主の聖なる魂にその重みをかけた。わたしたちが主にあつて神の義となることができるために、罪を知らなかった方がわたしたちのために罪となられた。人間の性質を取ることによって、主はわたしたちのとがのために傷つけられ、わたしたちの不義のために碎かれ、その打たれた傷によってわたしたちがいやされる立場にご自身を置かれたのである。

キリストは人性において、その性質が人間の性質よりも偉大であられたので、人が悪魔によって試みられるときよりも、もっと大きな誘惑で試みられ、もっと執拗な精力で試みられた。キリストが、この上なく繊細な思いやりをもって人間と結びつけられているということは、深い神秘的な真理である。アダムのすべての息子、娘たちの悪い行いや悪い思想、また悪い言葉は、キリストの聖なる魂にのしかかった。人間の罪は主ご自身の上に報復を求めた。それで主は、人間の身代わりとなられ、世の罪をご自身に引き受けられた。主は一人一人の罪人の罪を負われた。なぜなら、あらゆる違法は主に帰せられたからである。…「わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができるのか」(ヘブル 2:3)。(ビュー・アンド・ヘラルド 1892年2月20日)

3月2日

わたしたちのとがのために傷つけられ

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:4, 5)

誠実なクリスチャンは、罪が行った荒廃を見て、心から悲しみを覚える。しかし、人の心のうちに罪が存在するのをキリストがごらんになるときのキリストの悲しみを人が理解するには限りがある。…

主の気高い純潔の光から、世の救い主は、人類家族が神の律法の違反によって自分たちにもたらされた弊害に苦しんでいるのをごらんになることができた。あらゆる苦しみを主はその原因をたどってごらんになった。主は悔い改めない罪人の悲しい、そして恐るべき最後の歴史を読み取っておられた。主はご自分だけが彼らの落ち込んだ穴から、彼らを救うことができることを知っておられた。主だけが彼らの足を正しい道に置くことができた。主の完全のみが人間の不完全のために役立つことができた。主だけが、ご自分の義というしみのない衣で人間の裸をおおうことができた。

キリストはすべての人を求められた。主は一人が失われることさえ耐えられなかった、もし人類家族が世の中に存在する違法や違反や犯罪における罪の結果を見ることさえできたなら。自分が神のみ姿から悪魔に似た者に変化しているのをもし人類家族が知ることができたならばよいのに。人は純潔で聖なるものに造られたが、しかし罪を犯すことによってサタンの特性を持つようになったのである。…

人間の姿で世に来られることにより、また律法の支配を受ける者となることにより、そして、人間の病や悲しみや罪を、ご自分が負われたことを人にあらわすことによって、キリストが罪になられたということではなかった。主は純潔でどのような病にも汚されていなかった。罪のしみは一つとして主には見つからなかった。…主は神のしみのない小羊として世の前に立たれた。苦しんでいる人性が主に覆いかぶさった時、完全な人間としての健康な状態にあられた主は、人性に悩まされる方となった。人間のために主がご自身の完全な愛をあらわされるということが、本質的な事柄であった。…キリストは全世界を救われるほど清くあられたのである。(原稿 18, 1898 年)

屈辱の深み

「このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているのです、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、」(ヘブル 2:14)

なんと驚くべき人間と神の結合!…彼〔キリスト〕は、ご自分を人間の性質にまで低くされた。主はみ言葉が成就されるためにこれをされた。そしてその計画はご自分の計画のあらゆる段階を知っておられる神のみ子によって始められた。そのためにのろわれて、うめいている世界の罪の贖いをするために、降りてこられた。これはなんという謙遜であつたことであろう。このことは天使を驚かせた。言葉ではそれを描くことはできない。想像すら不可能である。永遠のみ言葉は肉体を取ることに同意された。神が人となられた。それは驚くべき謙遜であつた。

しかし、主はさらにより低く下りてこられた。人の子は人として侮辱と非難、また恥ずべき告発と悪口を受けるためにへりくだらなければならなかった。主はご自身の領土の中にご自分のための安全な場所はないように思われた。主はご自身の命のためにあちこちに逃れなければならなかった。主はご自分の弟子のひとりに裏切られた。主はご自身にもっとも熱心に従っていた者の一人に否定された。主はあざけりを受けられた。いばらの冠をかぶせられ、むち打たれ、十字架という重荷を負うことを強いられた。

主はこの屈辱と、恥辱に対して無感覚ではなかった。主はおとなしく服されたが、ああ!主は他のだれも感じるができない辛苦を感じられたのであつた。主は純潔で聖で汚れないお方であつた。しかし犯罪人として、とがめられた。崇敬を受けるべき救い主はもっとも高い所から下りてこられた。一步一步主はご自身を死に至るまで低くされた。しかし、それはなんという死であつたことか!それはもっとも恥ずべきもっとも残酷な重罪人としての十字架上の死であつた。主は世の人々にとって戦場の榮譽で飾られた英雄のように死なれたのではなかった。主は天と地の間に掛けられた、有罪を宣告された犯罪人として死なれた。すなわち下品な、そして犯罪を積み重ねた放蕩な群衆のあざけりととのしりにさらされて、恥ずかしめの中に長引く死を遂げられた。…

天の王者の子の屈辱のすべては、罪を犯して有罪を宣告された人間のためであつた。主はご自身の屈辱の内に低く低く下りてゆかれた。主はもはやそれ以上は行くことができないという最低の深みまでゆかれた。それは人をその道徳的な汚れから引き上げるためであつた。これはすべてあなたのためであつたのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1127、1128)

3月4日

カルバリー、それは神の最高の働き

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」(ヨハネ第一 4:10)

神の愛は、キリストがご自身の使命とわざについて語られた時の主題であった。「父は、わたしが自分の命を捨てるからわたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである」(ヨハネ 10:17)。わたしの父は限りない愛をもってあなたがたを愛しておられるので、わたしがあなたがたを贖うために自分の命を捧げたがゆえになお一層、わたしを愛されるのである。そして、神は、わたしがあなたを愛しておられる。そして、わたしがあなたがたを愛し、わたしの命をあなたがたのために与えるので、わたしをさらに愛してくださるのである。…弟子たちは自分たちの救い主が恥と非難、疑いと裏切りに耐えておられるのを見たとき、またゲッセマネの園での苦悩と、カルバリーの十字架の上での死を見たとき、この愛をよく理解したのであった。これはどのような測量機でもはかることのできない深い愛である。弟子たちが、このことを理解したとき、神の聖なる憐れみを彼らの知覚力がつかんだとき、彼らは御子の苦しみは、み父の苦しみであったという本当の意味を知ったのであった。…

わたしたちの救い主が、罪人を救うために苦しみの杯を受けることに同意されたとき、主の苦しみに耐える能力が、主の苦しみに対する唯一の制限であった。…わたしたちのために死なれることによって、主はわたしたちの負債と等しい価値のものをお与えになった。こうして、主は、罪の罪過を減じるというあらゆる責任を神から取り除かれたのである。御父とわたしが一つであることの徳によって、わたしの苦しみと死は、わたしが罪の刑罰を支払うことができるようにすると主は言われる。わたしの死によって、制限が神の愛から取り除かれる。神の恵みは、拘束されず効果的に働くことができる。(ユース・インストラクター 1897 年 12 月 16 日)

キリストは、わたしたちの救い主である。主は、肉体となり、わたしたちのうちに宿ったみ言葉である。主は、わたしたちが、すべての不純物から洗い清められることのできる泉である。主は人間の和解のために与えられた高価な犠牲である。天の宇宙世界も、罪を知らない諸世界も、罪に落ちた世界も、そして悪の連合も神は神がなされた以上のことを、人間を救うためにまだ他にすることができたはずだと言うことはできないのである。神の賜物は、決してこれ以上はあり得ず、これ以上豊かな深い愛を示すこともできない。カルバリーは神の最高の働きを表している。主の祝福が人間に救いを得ることを可能にした。その偉大な救いをいただくことによって神の大きな愛に応えることが人間のなすべき役割である。(同上 1895 年 10 月 17 日)

わたしたちの聖なる贖いでえられる キリスト

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。」(ペテロ第一 1:3, 4)

「キリストにこそ満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており」(コロサイ 2:9)。人は、天地創造の神が苦しまれ、カルバリーの苦悩の下に沈まれたということを理解する必要がある。しかし神が、世の贖いのために与えられたイエス・キリストは、ご自身の血で教会を買い取られた。天の王は、地上で最も啓蒙された民であると宣言していた宗教的熱狂者の手で苦しめられた。

神が創造され彼らの命の一瞬一瞬を神に頼っていた人たちや、アブラハムの子であると主張していた人たちは、無限の神の罪のない御子の上にサタンの怒りを積み上げたのである。キリストが律法の違反によって引き起こされた重大な罪過を負われていた時に、またわたしたちの罪を負いわたしたちの悲しみを身に受けておられる間、キリストは大祭司や指導者たちによってあざけられたのであった。…

十字架において恵みと真理は共に会い義と平和が互いに口づけしあった。ここに、すべてのものが理解する必要のある中心課題がある。ここにあらゆる計算を超える長さ、広さ、深さ高さがある。…

キリストの品性は限りなく完全な品性である。み言葉はキリストのことを明言している。主は全世界の命のために、ご自身の命を与えられた方として、高められ、宣言されている。…キリストはご自身の命を与えられている。それで不忠実で、不従順などんな人間も、ヨハネ第一章に与えられている約束の真理を認識できるのである。「彼を受け入れた者、すなわちその名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12)。何回も何回もそれを語りなさい。わたしたちは、神の子、王の家族の一員、天の王の子となることができる。キリストを受け入れ、そして初めの確信を終わりまで、堅く保つ者はすべて、「朽ちず、汚れず、しばむことのない資産」を受け継ぐために神の相続人、キリストと共に共同相続者となるであろう。(原稿 153, 1893 年)

3月6日

新しい命への復活

「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」(ローマ 6:4)

悔い改めた信徒、すなわち改心において要求される過程を踏む人は、自分のバプテスマにおいて、キリストの死と埋葬、また主の復活を記念する。彼はキリストの死と埋葬の様にひとしく水の下をくぐり、そしてこのお方の復活の様にひとしく自ら引き上げられるのである。すなわち、罪の古い命を取り上げるのではなく、キリスト・イエスにある新しい命を生きるのである。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワット・コメント] 5 卷 1113)

わたしが「命を捨てるのは、それを再び得るためである」(ヨハネ 10:17)と言われた主は、墓からご自身の内にあった命へと進み出てこられた。人性は死んだが、神性は死んだのではなかった。ご自身の神性において、キリストは死の束縛を破る力を持っておられた。主は、よみがえらせようとする者に与える生命が、ご自身の内にあることを宣言された。

すべての被造物は神の意志と力によって生きる。彼らは神のみ子の命の受取人である。どれほど能力があり、才能があっても、また彼らの可能性がどれほど大きくても、彼らはすべての命の源から命を補充されている。主は命の源であり、泉である。ただ一人不死であられ、光と命の中に住まわれる方は「わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある」と言っておられる(ヨハネ 10:18)。…キリストは不死を与える権威を授けられている。主は、人性を取っていた時に捨てた命を再び取り上げ、そして人間に与えられたのである。…

キリストは人間が霊と命において主と一つになることができるように人間と一つになられた。神のみ言葉に従順であることによる、この一致によって主の命は彼らの命となる。主は心から悔い改めた者に「わたしはよみがえりであり、命である」(ヨハネ 11:25)と言われる。死はキリストによって眠り、すなわち静かで、暗く、眠る者とみなされた。主はあたかもそれは、一瞬の間であるかのように語られる。「生きていてわたしを信じる者は、いつまでも死なない」と言われる(ヨハネ 11:26)。…「その人はいつまでも死を見ることがない」(ヨハネ 8:51)。そして、信じる者に対して、死は小さなことでしかない。彼にとって死ぬことは、眠ることではない。「神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導きだして下さるであろう」(テサロニケ第一 4:14)。(レクテッド・メッセージ 1 卷 301 - 303)

天における栄光の再開

「門よ、こうべをあげよ。とこしえの戸よ、あがれ。栄光の王がはいられる。栄光の王とはだれか。強く勇ましい主である。…これこそ栄光の王である。」(詩編 24:7-10)

キリストは人性を装った神として地上に來られた。主は聖徒たちの王として天に昇られた。キリストの昇天は主の高貴な品性にふさわしかった。主は戦いの勇者として、征服者として、捕らえた捕虜たちを従えた勇者としてのぼられた。主は讃美の歓声と、歓呼、そして天上の歌を受けて、天の軍勢がつき従った。…全天は主の歓迎に一体となった。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 卷 1053)

キリストの昇天において弟子たちにとってもっとも貴重な事実は、彼らの天の教師が触れることのできる姿で、彼らのところから天に行かれたということであった。弟子たちが自分たちの主について持っていた最後の記憶は自分たちに同情してくださる友であり栄光に輝く救い主であった。…見える天の護衛者の輝きと主を喜んで迎える神の栄光の門が開かれたことは、人間の目に認められるべきではなかった。

キリストの天に帰られる道が表現のできない栄光のうちに、弟子たちに現わされたならば、彼らはその光景に耐えることはできなかったであろう。もし彼らが無数の天使たちを見、とこしえの戸があげられたとき、天の戦いの勝利のかちどきを聞いたなら試練の世における彼ら自身の生活と、この栄光との間の対照があまりに大きいので彼らは自分たちの地上の生活の重荷を再び取り上げることはほとんど不可能になったであろう。…

彼らの感覚が、天の栄光に夢中になるあまり、地上におけるキリストのご品性を見失ってしまうことがあってはならなかった。そのご品性を彼らは自らのうちに模倣するのであった。彼らは自分の心にはっきりと、主のご生涯の麗しさと気品を、また主のあらゆる特性の完全な調和を、そして主のご性質における神性と人性の神秘的な結合とをはっきり覚えているべきであった。弟子たちの救い主との地上における交わりは、それまでどおり厳粛で静寂で、荘厳な方法で終わるべきであって、その方がよかったのである。目に見えるこのお方の世からの昇天は、主のご生活の柔和と静かさに調和したものであった。(同上 1054)

3月8日

完全な贖罪

「そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。」(ローマ 5:11)

わたしたちの大祭司は門の外で苦しまれた時、ご自身の犠牲の供え物を完全にされた。その時、完全な贖罪が民の罪のためになされたのである。イエスはわたしたちの弁護人、またわたしたちの大祭司、そしてわたしたちの仲保者である。それゆえわたしたちの現在の立場は、昔のイスラエルが宮の外庭に立って、祝福された望みであるわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望んでいるそれに等しいのである。…

わたしたちの大祭司が現在とりなしておられるその場所を象徴していた至聖所に大祭司が入って、祭壇に犠牲をささげた時、外ではあがないはささげられなかった。大祭司が、内でとりなしている間中すべての人の心は、犯した罪の許しを願って神の前に悔い改めて頭をたれているべきであった。キリストの死において、型は実体と会い、小羊(キリスト)は、最高の価値を持つ唯一の犠牲をささげられた。…

わたしたちの弁護人としての主のとりなしにおいて、キリストは、人間の徳や、人間のとりなしを必要とはされない。キリストは唯一の罪を負う方であり、唯一の罪のささげ物である。祈りと告白はすべての人のために、一度だけ至聖所に入られた主に対してのみささげられるべきである。…

キリストは世にご自分の御父をあらわし、また御父の前にご自分が神の道德のみ姿を回復された人々を示しておられる。彼らは神の遺産である。…どのような祭司も、どのような宗教家も、アダムの息子、娘に父なる神を表すことはできない。人間は罪を許すことのできる唯一の弁護人、唯一の仲保者を持っているのである。わたしたちの罪のためのなだめの供え物となるために、イエスを与えられた神に対する感謝でわたしたちの心はいっぱいにならないだろうか。御父がわたしたちのためにあらわされた愛、神がわたしたちのために表現された愛を深く考えなさい。わたしたちはこの愛をはかることができない。いかなる尺度もないのである。わたしたちはただ、カルバリーと世の基のはじめから、ほふられた小羊をさし示することができるだけである。それは、無限の犠牲である。わたしたちは、無限を理解し、量ることができるだろうか。(原稿 128、1897 年)

ご自分の勝利を宣言される勝利者

「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。」(ヘブル 2:17)

イスラエルの大祭司について聖書は「アロンが聖所にはいるときは、さばきの胸当てにあるイスラエルの子たちの名をその胸に置き、主の前に常に覚えとしなければならぬ」(出エジプト 28:29)と書いてある。これはご自分の教会に対するキリストの変わらない愛のなんと美しい、そして意味の深い象徴であろうか。アロンがその型であったわたしたちの偉大なる大祭司は、ご自分の民をご自分の胸に置いておられる。…罪の完全な贖罪をなしておられる大いなる大祭司としてキリストは、神聖な威厳と栄光の中に立っておられる。他の大祭司たちは型に過ぎなかった。それで、主があらわれた時、彼らの奉仕の必要は消え失せた。…誘惑的である人類は、天の法廷にわたしたちの弱さを知ってください一人の大祭司を持っていることを覚えるべきである。なぜなら、主は人間と同じようにご自身が試みられたから、それがおできになるのである。(レビュー・アソド・ヘラルド 1903 年 3 月 17 日)

キリストは真の幕屋で仕えておられる方であり、ご自分を個人的救い主として信じるすべての人の大祭司である。そして、主の役割に他の人が変わることはできない。主は教会の大祭司である。…

キリストは神の遺産を買い戻して、人間にもう一度機会を与えるために、ご自身の裂かれた体を提供された。「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」(ヘブル 7:25)。主のしみのない生活と従順そしてカルバリーの十字架上の死によって、キリストは失われた人類のためにとりなしをされた。そして今、わたしたちの救いの将は、単に嘆願者としてわたしたちのためにとりなしをされるだけではなく、勝利者としてご自分の勝利を宣言されている。主の供え物は完全である。そしてわたしたちの仲保者として、主ご自身のしみのない功績と、ご自分の民の祈りと告白、そして感謝を入れた香炉を神の前に持って主ご自身が定められた働きを遂行しておられる。主の義の香りで香しくされて、これらは美しい香気として神に上っていく。このささげ物は完全に受け入れられ、許しはすべてのとがをおおうのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1900 年 2 月 14 日)

3月10日

絶え間ない犠牲の供え物

「だが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。」
(ローマ 8:34)

イエス・キリストは、祭壇の前にいつも立っておられ、世の罪のために絶え間なく犠牲をささげられている方として表されている。主は、人ではなく神が張られた真の幕屋の奉仕者である。…日毎、また年毎の型としての贖罪はもはやなされるべきではない。しかし、仲保者による贖罪の犠牲は、絶えず罪が犯されるために不可欠である。イエスは、ほふられた小羊としてご自身の流された血潮をささげて、神の御前に務めをされている。…

わたしたちの仲保者であられるキリストと聖霊は人間のために絶えずとりなしをされている。しかし御霊は世のはじめから流されたご自分の血を提供されたキリストがなされるようには懇願なされない。御霊は、わたしたちの祈りと悔い改め、また讃美と感謝を引き出すためにわたしたちの心に働きかけるのである。…

宗教上の奉仕や祈り、また讃美や罪の悔い改めの告白は、天の聖所に上っていく香のように真の信者から上っていく。それは人間という墮落した通路を通っていくので、非常に汚れており血によって清められないならば、決して神の前に価値あるものとなることができない。それらはしみのない純潔さで上っては行かない。そして、神の右におられる仲保者がご自分の義によってすべてのものを清め、差し出されるのでなければ、神に受け入れられない。地上の幕屋からのすべて香は、キリストの血の清めるしたたりで湿っていなければならない。主は地上の道徳的墮落という汚れに染まっていないご自身の功績という香炉を天父の前にささげておられる。主は、この香炉にご自分の民の祈りと賛美と告白を集められ、それらに主ご自身のしみのない義をおかれる。その時、キリストのなだめの供え物の功績でかぐわしくされて、香はことごとく完全に受け入れられるものとして神の御前に上っていく。…

ああ、キリストの義の燃える火の上に、従順に、悔い改めて讃美と感謝をもって、すべてのものがおかねなければならないことを全員が知ることができるなら良いのに。この義の香は、贖罪所(恵みの座)のまわりに雲のように上っていくのである。
(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1077, 1078)

わたしたちの性質を着た助け主

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。」(ヨハネ第一2:1)

わたしたちのために神が与えて下さるものとみ約束は無制限である。恵みの御座自体がご自分を御父と呼ぶことを許して下さる方によって占められている。…神はご自分の祭壇にわたしたちの性質を着られた救い主をおかれた。わたしたちの仲保者としてのキリストの務めは、神にわたしたちを神の息子、娘として紹介することである。主はご自分を受け入れる者のためにとりなしておられる。主はご自身の血で彼らの身代金を支払われた。主の功績という徳によって、主は人々に王の家族の一員、天の王子になる力をお与えになる。そして天父はキリストの友をご自身の友として受け入れ歓迎されることによってキリストへのご自分の無限の愛を実証される。神は贖罪がなされたことに満足される。神は御子の受肉と生涯、また死と和解によって栄誉をお受けになる。

キリストのみ名のうちに、わたしたちの嘆願は御父のみもとに上る。主はわたしたちのためにとりなしをなされ、そして御父はわたしたちの必要を満たすために、わたしたちがそれを楽しみ、そして他の人々に与えることができるために、ご自身の恵みの宝庫のすべてを開いて下さる。…キリストは神と人間の間を結ぶ鎖である。…主は嘆願者の側にご自分の義のすべての徳をおかれる。主は人のために弁護され、天の助けを必要とする人は、世の命のためにご自分の命を与えられた方の感化力を用いて、神のみ前に自分自身のために嘆願する。わたしたちが神のみ前にキリストの功績の真の価値を知って感謝するとき、わたしたちのとりなしのために芳しい香が与えられる。わたしたちが贖い主の功績という徳を通して神に近づく時、キリストはわたしたちをご自分の側近くに置かれ、ご自身の人間としてのみ腕でわたしたちを囲んで下さり、主の神としてのみ腕で無限の方のみ座をつかまれる。主はわたしたちの嘆願を励ますためにわたしたちの両手にある香炉に香しい香としてご自身の功績をおかれる。…

実際、キリストは人間と神の間の祈りの仲介者になられた。主はまた神と人間の間の祝福の仲介者になられた。(教会への証 8 巻 177 - 179)

3月12日

イエスがとりなしをされる時

「ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。」(ヘブル 9:24)

わたしたちの尊い贖い主は、わたしたちの仲保者として天父の前に立っておられる。…神の標準に到達しようと望む者は、自分のために聖書を探究しなさい。そうすれば、彼らはキリストのご生涯の知識を持ち、キリストの使命と働きを理解することができる。彼らに自分たちの弁護人として主を仰ぎ見させなさい。主は、ご自分の義の功績という聖なる香が神に祈る人々のためにそこから神に上っていく金の香炉をご自分の手に持って、幕の内側に立っておられる。人々は主を仰ぎ見るならば天の法廷に、力強い説得力のある弁護人を持ち、彼らの願いは神のみ座の前で聞かれるという保証を知ることができるのである。

なんという経験を恵みのみ座の足元で得ることができることだろう。恵みのみ座は唯一の安全な逃れ場である。あなたは神がみ約束の背後におられることをはっきりと知って、あなたの祈りの言葉を心配したり、イエスがあなたの保証人であり、代理者として立っておられることを疑ったりすることはない。あなたが自分の罪を告白し、自分の悪の行為を悔い改める時、キリストはあなたの罪をご自身の上におかれ、主ご自身の義と力をあなたに着せてくださる。心から罪を深く悔いている者に対して、主は愛という金の油と、ご自身の恵みという豊かな宝物を与えられる。そしてあなたは、キリストの功績によって神に自己を犠牲としてささげることが、あなたを無限の価値を持つものとすることを知る。なぜなら、あなたはキリストの義の衣を着せられたので、神の息子、娘となるからである。イエスのみ名において許しを求める…人々は、自分たちの願いが聞き入れられるであろう。わたしたちの悔い改めのその最初の表現の時に、キリストはその罪人のためにご自身の願いとして、み座の前で謙遜な嘆願者の懇願をささげて下さる。主は「わたしは、あなたがたのために父に願ってあげよう」(ヨハネ 16:26)と言われる。

わたしたちの尊い救い主イエスは、わたしたちがサタンの致命的な罠にさらされているのを見るにしのびなくて、わたしたちのために無限の犠牲を払うことを忍ばれた。主はサタンと試みられている魂との間に介入されて、『「サタンよ、うしろにしりぞけ。」この試みを受けている魂の近くへわたしを行かせなさい』と言われる。主は謙遜で、おののくすべての嘆願者をあわれみ、愛される。(ユース・インストラクター 1896年1月16日)

完全な救済

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも（完全に）救うことができるのである。」（ヘブル 7:25）

とりなしとはなんであろうか。それは有限な人間を、無限の神のみ座に結び付ける金の鎖である。キリストが救うために死んでくださった人間は、神のみ座をしきりに求める。そして人の嘆願はご自身の血で人間を贖われたイエスによって取り上げられる。わたしたちの偉大な大祭司は、ご自分の義を敬虔な嘆願者の側に置き、キリストの祈りを人間の嘆願の祈りにまぜ合わせてくださる。

キリストは、ご自分の民に祈りをやめないように勧められた。これはわたしたちがいつもひざをかがめているべきであるという意味ではなく、祈りが魂の呼吸のようであるべきだということである。わたしたちの声を出さない求めは、わたしたちがどこにいても、神に上っていくべきである。そして、わたしたちの弁護人であるイエスはわたしたちのためにとりなしをされ、わたしたちの天父に対する願いを、ご自身の義の香と共にささげられるのである。

主イエスは、ご自分の民を愛しておられる。そして、人々がご自分に全く頼って、ご自分に信頼をおくならば、主は人々を強められる。主は彼らを通して生き、ご自分の清めの御霊の靈感を彼らに与え、ご自身の命の輸血を魂にお与えになる。主は、人々の能力を通して働かれ、人々が主の御心を選ぶようにされ、ご自分の品性のように行動できるようにされる。そのとき使徒パウロと共に人々は、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子信じる信仰によって、生きているのである」（ガラテヤ 2:20）ということができる。

主は苦しみ試みられているご自分の子らが、サタンの誘惑にもあそばれる者になるまま放つてはおかれない。イエスを信じるのはあなたの特権である。天は豊かな祝福で満ちている。…わたしたちがそれを持たないのは、求めないからである。あるいは聖霊の特別な働きでわたしたちが祝福されるということを感じて、祈らないからである。キリストの仲保を通して真に求める者に対しては、聖霊の恵み深い感化が分け与えられるのである。（手紙 13, 1894 年）

3月14日

どのような嵐にも安全

「この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ『幕の内』にはいり行かせるものである。その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさががけとなって、はいられたのである。」(ヘブル 6:19, 20)

望みがわたしたちの前に置かれている。それは永遠の命の望みである。まさにわたしたちのためであるこの祝福はわたしたちの救い主を満足させる。しかし、この望みを信仰によって、約束された方に置くのはわたしたちのなすべき分である。わたしたちは、苦しむことが予想できる。なぜなら主の栄光に主と共にあずかる者は主の苦しみを主と共に分かちあう者だからである。主は罪深い滅ぶべき人間の魂のために許しと不死とを買い取られた。しかし、これらの賜物を信仰によって受け取るのはわたしたちのなすべき分である。主を信じることによって、わたしたちはこの望みを魂の錨、確かで不動のものとして持つのである。主がわたしたちの救いのために、このような値を支払われたので、わたしたちは神の恵みをこの世ばかりでなく、天の世界においても確信をもって期待できるということを理解すべきである。キリストの贖罪ととりなしにおける信仰は、戦う教会にいるわたしたちを押しつぶそうとする誘惑の最中にあっても、わたしたちを安全で不動なものにしてくれる。わたしたちは、自分の前に置かれている栄光の望みを瞑想し、信仰によって、それをつかもうではないか。…

わたしたちは、天を自分自身の功績によってではなく、イエス・キリストの功績によって得るのである。…あなたの望みは、あなた自身を中心に置くのではなく、幕の内に入られた主に集中されねばならない。祝福された望みと、わたしたちの主、イエス・キリストの栄光の出現を語りなさい。

わたしたちが大きな道徳的危機にさらされていることは事実である。墮落する危険の中にわたしたちがいることも事実である。しかし、この危険もわたしたちが自己に頼り、わたしたち自身の努力だけを見て、それより高いものを見ようとし、ない時にわたしたちを脅かすのである。こういうことでは、わたしたちは信仰の破船をしてしまう。(ビュー・アソド・ヘルド 1896 年 6 月 9 日)

永遠の命というわたしたちの望みはキリストに集中する。わたしたちの望みは、幕の内に入りゆくとき、魂にとって、いわば魂を安全にし、不動にする錨である。なぜなら嵐にほんろうされている魂は神のご性質を分かちあうものとなるからである。その人はキリストに錨をおろす。誘惑という荒れ狂う暴風雨の最中においても、その人は岩にぶつかったり、うずの中におぼれたりすることはない。主の船は嵐を乗り切ることができる。(手紙 100, 1875 年)

イエスはわたしたちをつかんでおられる

「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。」(ヨハネ 10:27, 28)

天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりとつかんでいるからである。もし救いがわれわれ自身の努力にかかっているとすれば、われわれは救われることができない。しかし救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。キリストをとらえるわれわれの力は弱いように見えるかもしれないが、キリストの愛は兄の愛のようで、主と結ばれているかぎり、だれも主のみ手からわれわれを引き離すことはできない。(患難から栄光へ下巻 256)

イエス、尊いイエスは、「あわれみあり、めぐみあり、怒ることおそく、いつくしみと、まことと豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者」であられる(出エジプト 34:6, 7)。わたしたちがあるがままでイエスの所に来て主の愛に自分を投げ出すことができるというのはなんとという特権であろうか。わたしたちはイエス以外には希望がない。主だけがわたしたちのところに来てその御手で失望と絶望の底からわたしたちを引き上げ、岩の上にわたしたちの足を置くことができるのである。人間の魂は、自分の大きな必要に必死になって、イエスにすがりつくことができるが、イエスは罪人がご自分にすがりつくよりも、もっとしっかりとご自身の血で買われた魂をつかんでくださるのである。

わたしは次のみ言葉を何度も何度も読んだ。なぜなら、それは非常に保証に満ちているからである。「さて、わたしたちには、もろもろの天をとって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」(ヘブル 4:14 - 16)。…なんというすばらしい救い主、すなわちよみがえられた救い主、ご自分に来る者をすべて救うことのできるお方を、わたしたちはもっていることであろう。(手紙 119, 1893 年)

3月16日

信心の奥義

「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。」(ローマ 8:32)

このすばらしい値のつけられない賜物が与えられる前、全天は、測ることのできない神の愛を理解させたいという強い感動を受け、人間の心の中に賜物の価値にふさわしい感謝を目覚めさせたいという気持ちにせき立てられた。キリストがご自分の命を与えて下さった者として、わたしたちは二つのものの間で迷えるのだろうか。わたしたちは神に、わたしたちの持っている能力のほんの一部だけを、与えようとするのだろうか。わたしたちは神が貸して下さった能力と力のごく一部分しか返さないのだろうか。わたしたちは全天の指揮官であられた方が、…人類の無力を理解して、わたしたちの人性を主の神性に結び付けることを可能にするために、人の性質をとって、この地上に來られたということを知りながら、このようなことをすることができるであろうか。

主はわたしたちが、はるかにすぐれたそして、永遠の栄光の重みをもつ天の宝の所有者になるために、貧しくなられた。墮落した人類を救うために、一つの屈辱から他の屈辱へと、神であり、人であり、苦しまれるキリストであられる方が、すべての人間をご自分のもとに引き寄せるために十字架にかけられるところまで降りてこられたのである。神のみ子は、ご自分のなさったよりもさらに大いなる謙遜を示すことはおできにならなかった。主はこれ以上低くなることのできないところまで低くなられたのである。

これは信心の奥義、すなわち天の代理者たちを感動させ、墮落した人類を通して、この世に救いの計画に対する関心を起こさせようと奉仕させる神秘である。これが墮落した世界の救済のための神の偉大なるご計画を遂行するについて人間と協力するよう全天を感動させた奥義であって、天と地のしるしによって男も女も主の再臨のために準備するよう導かれる。…

教会のかしらとしてキリストは権威を持って、ご自分を信じていると公言するすべての人々に、ご自身の自己否定と自己犠牲の模範に従うよう召しておられる。…彼らはイエス・キリストの血に染むみ旗の下に遅滞なく集まるようにと召されている。何物も惜しむことなく、彼らは、永遠の測ることのできない目的の達成、すなわち魂の救いのために完全な献身をするべきである。(原稿 62, 1902 年)

淵にかけられた橋

「イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』」（ヨハネ 14:6）

イエスが「わたしは道であり、真理であり、命である」と仰せになったとき、彼は素晴らしい意味深い真理を述べられたのである。人間の違反は、地を天から、また有限な人間を無限の神から引き離した。島が大陸から離れているように、地は天から切り離され、神と人間との間に広い川が横たわってしまった。イエスはこの淵に橋をおかけになり、人間が神のところに行くことのできる道をおつくりになった。霊的な光を持っていない者は、道を見出さず、希望も持たない。そして人々は自分たちが考え出した命の道についての彼ら自身の考えを持っている。…しかし、人間に与えられた、彼らを救い出すことのできる唯一の名は、イエスである。罪が作った淵を渡って、「わたしは道であり、真理であり、命である」という主のみ言葉はもたらされる。…

人間はキリストの義を着ることによってのみ、義とされる。人は、行為によってではなく信仰によって、神の恵みによってただで義とされるのである。これはだれもがそのことによって誇ることがないためである。救いはわたしたちの主イエス・キリストを通して与えられる神の賜物である。…

敵がアダムとエバを罪に陥れて後、天と地との関係は断たれた。そしてキリストのかかわりがなかったならば、墮落した人類は、天国への道は知るすべもなかった。…キリストは最下段は地につき、最上段は無限なる方のみ座に届く神秘的な梯子である。アダムの子らは神から見捨てられ、またうとんぜられて、放っておかれるのではなく、キリストの義を通してわたしたちは天父のみもとに近づけるのである。

キリストは、「わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう」と仰せになった（ヨハネ 10:9）。地よ喜べ、この世界に住む者よ、歓喜せよ、キリストは罪が作った淵に橋をかけられ、天と地を一つに結ばれたのである。主に贖われた者のために立派な道が作られている。疲れ、重荷を負っている人は主のもとに行き、彼らの魂に休息を見出すことができる。巡礼者は、主がご自分を愛する者のために用意するために行かれた住まいに向かって、旅をすることができるのである。（ビュ・アンド・ハルト 1890 年 11 月 11 日）

3月18日

価値をつけることのできない真珠

「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」(マタイ 13:45, 46)

この高価な真珠は畑に隠されている金のように、キリストの値をつけることのできない宝をあらわしている。キリストにあつてわたしたちは、この人生でわたしたちに必要なすべてのものを持つ。そしてそれは来るべき世の喜びとなるのである。この世のすべての金をもってしても、平安と休息、また愛の賜物を買うことはできない。これらの賜物は、キリストにある信仰を通してわたしたちのために用意されている。わたしたちはこれらの賜物を神から買うことはできない。わたしたちはそれらを買うために何も持っていないのである。わたしたちは神の所有物である。神のみ子の命という身代金によって体も、魂も心も買い取られているからである。

では永遠の宝を買うということはどういうことであろうか。それはイエスに主ご自身のものを単純に返し、信仰によって、主を心に受け入れることである。それは神と協力することであり、またキリストと共にくびきを負うことである。そして、主の重荷を負うことである。…主イエスは人性によって人類を高めるために、その王冠をかたわらに置き、ご自身の高い支配者の地位を去り、人性を持ってその神性を覆われた。主はそうにして人類の可能性を認められたので、人間の身代わり、また保証人となられたのである。主は人の上にご自身の功績を置かれ、このようにして神と共なる道徳的価値の標準に人間を高められるのである。

キリストは、贖いの犠牲である。主は天の栄光を離れ、ご自分の富を手放し、ご自分の栄誉をかたわらにおかれた。それは神の心の中に人間に対する愛と関心を生じさせるためではなく、天父の心の中にすでに存在している愛の説明者となるためであった。…イエスはご自分のすべての富を代価としてお払いになり、人性をおとりになった。主は貧乏と屈辱の生活へと身をおとされた。それは主が失われていた者を探し、救おうとされたからである。

キリストの恵みを通して、わたしたちは強められ、成長させられる。だからわたしたちは現在には不完全であるが主にあつて完全な者になることができる。わたしたちはサタンに自分を捧げていた。しかしキリストはわたしたちを贖い、買い戻すために来られた。わたしたちは神から何も買い取ることはできない。わたしたちが救われるのは、ただ恵みによってだけであり、キリストの内にいる神の自由の賜物によってだけである。(ユース・インストラクター 1895 年 9 月 5 日)

キリストの価の高い宝石

「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。」(マラキ 3:17)

天の王国は「高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買う」「良い真珠を捜している商人」のようなものであると表現されている。このたとえ話は、ただ単に天の王国を求めている人にあてはまるだけではなく、またキリストがご自分の失われた子らを捜し求めておられるという二重の意味を持っている。罪を犯すことによって、人はその神聖な純潔を失い自分をサタンに捧げてしまった。神のひとり子であられるキリストは人間の贖いのためにみずから誓いを立て、カルバリーの十字架の上での人の身代金を払われたのである。主は罪に落ちなかった諸世界、天にあつて仕える聖天使の集まりを離れられた。人類がご自分から遠ざけられている間は、満足することがおできにならなかったからである。天の商人であられる方は、王衣と王冠をかたわらへ置かれる。全天の指揮者であり、王子であられるけれども、主は人性という衣をご自身にまとい、呪いによって傷つけられ、無感覚にされた世界においてになる。失われた一個の真珠を捜し出し、不従順によって墮落した人を探すために来られたのである。…

主は、がらくたの中にうずもれているご自分の真珠を発見される。人間の心は利己心で包まれサタンの暴虐によって縛られている。しかし主は暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さった方のみわざを語り伝えるために暗黒の中から人間を引き上げられる。わたしたちは神と契約を結ぶ関係に入ることを許され、許しを受けて平和を見出すのである。イエスは失われた人類という真珠を見つけ、ご自分の王冠のものと場所へそれをお戻しになる。…

彼は最も罪深く最も墮落したものに希望をお与えになる。主は、「わたしに来る者を決して拒みはしない」と仰せになる(ヨハネ 6:37)。魂が救い主を見出す時、救い主は良い真珠を見出した商人としてお喜びになる。主の恵みによって、魂が天の王国にふさわしく磨かれた宝石のようになるまで、主は働かれる。「神はそのひとり子を賜わたったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(1ヨハネ 3:16) (1895年10月10日)

3月20日

人生の最上のもの

「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10)

わたしたちの人生のあらゆる瞬間は、真剣な現実である。人生は遊びではない。それは恐ろしいほどの重要性が負わされており、永遠の責任を伴っている。わたしたちが人生をこの観点から見る時に、神の助けの必要を実感する。キリストのない人生は完全に失敗の人生であると自覚せずにいられない。しかし、もしイエスがわたしたちと共におられるならば、わたしたちは一つの目的のために生きることができる。その時わたしたちは神の恵みと聖霊の力なしには神がわたしたちの前に置かれた高い標準に到達することができないということを実感できるのである。わたしたちが到達すべき品性の聖なるすぐれた特性があり、天の標準に合う努力を真剣にすることにより、聖なる動機がわたしたちに注意をうながし、心はつり合いのとれたものとなり、そして魂の不安はキリストの内にある休息によって払いのけられるのである。

わたしたちはいかにたびたび、決して幸福になれない人々と接触することであろう。彼らはキリストがお与えになることのできる満足と平和を楽しむことができない。彼らはクリスチャンであると公言するが神のみ約束が成就される状態に合わない。イエスは「わたしのもとにきなさい。…わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11:28 - 30) と仰せになった。なぜ多くの人が休息のない状態にあるのか、その理由は、彼らが主の学校で学んでいないからである。従順で、献身的な神の子は、キリストの平安を持つことがどういうことであるかを経験によって理解する。(ビュー・アズ・ヘルド 1891年 9月 22日)

人生の最上のものすなわち単純、正直、真実、純潔、汚れない誠実などは、売り買いすべきものではない。それらは教育を受けた者と同様に教育のない者にも、また白人と同様に黒人にも、また王座に座る王と同様に貧しい者にも、ただで与えられるものである。…

わたしたちはみな人生という畑で種をまいている。わたしたちはまくように刈り取る。自己愛や無情、嫉妬などをまく者は、同じようなものを収穫する。無私の愛や親切、また他の人に対する優しい思いやりなどの種をまく人々は尊い収穫を刈り取るのである。(手紙 109, 1901年)

最も有利な投資

「わたしはあなたをほめたたえます。わたしは恐るべく、造られたからです。あなたのみわざはくすしく、わたしの魂は十分によく知っています。」(詩編 139:14 英語訳)

この世でただ一度だけの人生がわたしたちに与えられているので、一人びとりに次のことが問われるべきである。「わたしの人生が最も利益を生み出すために、どのように投資できるだろうか」。人生はわたしたちと人間同士の利益のために、そして神の栄光のために活用する時にのみ価値がある。創造主がわたしたちに授けて下さった能力を注意深く開発することは、わたしたちをこの世界で有用な者とし、来るべき世界において永遠の命を持つのにふさわしい者とするのである。

健全な身体と精神の健康を確立し保つために向けられる時間は、良い費やしかたをした時間である。…健康を失うのはたやすいが、回復するのは難しい。…わたしたちは身体のどんな機関でも酷使と乱用によって心と体の機能を发育不全にさせたり、かたわなものにさせたりする資格はない。もし、わたしたちがこのようにするなら、必ず、その結果に苦しまなければならない。わたしたちのすべての力を発達させることは神とわたしたちの同胞である人間に対する最初の義務である。創造主がわたしたちに与えられたすべての能力は、完全の最高点にまで開発されるべきである。そうすることによって、わたしたちはわたしたちのできる最大限の善をなすことができるようになるのである。キリストの恵みは、心を磨き、純潔にするために必要である。それはわたしたちの欠陥を知って、正し、わたしたちの品性をすばらしいものしてくれるはずである。イエスの力と名前においてわたしたち自身のためになされるこの働きはわたしたちが説教するどの説教よりもはるかにすぐれて社会に利益をもたらすものである。よく調和がとれ、秩序正しい人生の与える影響は、計り知れないほど価値がある。…

自分たちの食習慣がどれほど自分たちの健康や品性また、この世における自分たちの有用性、そして、自分たちの永遠の運命にかかわりを持たなければならないかを理解するために十分目覚めさせられている人は、ほとんどいない。食欲は道徳的、知的機関に従属しているべきものである。肉体は精神に仕えるべきであって、精神が肉体に仕えるべきではない。すべての人は自分自身の身体的構造に関して理解を持つべきである。そうすれば人々は詩編記者と同じように、「わたしはあなたをほめたたえます。わたしはおそろべき、くすしく造られたからです」と叫ぶことができるであろう。(ビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 9 月 23 日)

3月22日

委ねられた資本

「そこでイエスは彼らに言われた、『もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。』」(ヨハネ 12:35)

これは真理を信じていると言っているあなたがたに対してわたしたちが与えようとしている警告である。「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある」。わたしたちはあなたがたに人生の短いことを考えてもらいたいと思う。なんと時は早くすぎ去ることであろう。黄金の機会と特権はわたしたちの手の届く範囲内にある。満ちあふれる、豊かな神の慈悲は、その豊かな宝をあなたが求めるのを待っている。救い主は、ご自分の祝福を価なしに分けようと待っておられる。問題はただあなたがそれらを受け入れるだろうかということなのである。豊かな準備がなされており、光はあらゆる道に輝いている。しかし光はそれを評価しない人たち、それを受け入れ、それに応えようとしない人たち、あるいはそれを持っていながらその光を他の人々に分け与えようとしない人たちにはその貴重さを失うのである。

あなたの人生、あなたの魂、あなたの力、あなたの能力、あなたの心と身体
の力は、あなたの人生を通じて、自分の主のために活用するよう委託された資本だとみなすべきである。あなたは神の偉大な軍隊における自分に割り当てられた命令を遂行すべきである。またあなた自身の魂と他の人々の魂を救うために主の計画を実行すべきである。これはあなたが矛盾のないクリスチャン生活を送り、熱心な努力を続けることによって、またキリストの学校において主の道(方法)、主の目的、そしてあなたの意志を従わせ、キリストのみ心と道(方法)を歩むことを学ぶことによって行うことのできるものである。…

クリスチャンは、世俗的な生活とはっきり区別された生活を営むべきである。世俗的名利を負う人は安っぽい人生を送る。そういう人は霊的生活に同意しない。神の愛を持っている者は、命を持っている者であり、彼らの望みはこの世の中ではなくキリストの中にあって偉大なる中心となっているのである。…

「御子を持つ者は命を持ち、神の御子を持たない者は命を持っていない」(ヨハネ第一 5:12)。キリストを信じている者は彼らの動機の力、彼らの品性の構造を彼らが信じている主から引き出すのである。「あなたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい」(コリント第二 13:5)。(ユース・インストラクター 1895 年 1 月 10 日)

神が用いられる生涯

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた。」(イザヤ 43:7)

わたしたちの生涯は主のものであり、わたしたちが十分には理解していない責任を授けられている。自我という糸が織物の中に織り込まれてきた。そしてこれは神の誉れを汚すものである。

ネヘミヤは彼が住んでいた宮廷で君主に、そしてエルサレムでは彼の民たちに大きな影響力を得たのちに、彼自身の品性のすぐれた特性や、注目すべき才能や、活動力に賞賛を帰すことをしないで、事実即した事柄を述べたのであった。彼は、自分の成功が、自分の上に置かれた神の良きみ手によるものであったことを明言した。彼は、自分の影響力をもたらすあらゆる立場において、神が自分の保護者であるという真理を大切にした。彼が賞賛を得ることになった品性のあらゆる特性に対して、彼は神の活動的な力を賞賛したのであった。…

わたしたちは、あらゆる影響力は神のために用いられるべき尊いタラントであることを、深く考える必要がある。…わたしたちは自分が持っているすべての才能を正しく認識する必要がある。なぜならそれは、神の栄光のために活用すべき、借りた資本だからである。…人には自分の得た何らかの感化力が、自分自身のうちにある価値ある何かの結果であると考え誘惑が常にある。主はこういう人たちと共に働かれない。なぜなら、主はご自分のみ名に属している栄光を、どんな人間にも与えることはないからである。…主はへりくだった、信用できる僕を自分の代表者となさる。すなわち自己を高めない者、彼が考えるべき範囲を超えて、自分自身を高いと考える者である。このような人の生涯は、生きた供え物として神にささげられたものであり、そういった生涯を、主は受け入れられ、用いられ、支持なさるのである。主は人をご自身の知恵で賢くしようと切望しておられる。そのような知恵は、主ご自身のために使われるからである。主は、献身したへりくだった働き人を通してご自身を現わされるのである。…

受けた知識と恵みを、他の人々に分け与えるために用いるようにと委ねられたあらゆる能力を神聖な宝として用いなさい。このようにしてあなたがたは、神が能力を与えて下さった御目的に応えることになるのである。主がわたしたちに、イエス・キリストの中に自我を沈めるように求めておられる。そして神のために栄光が帰せられるべきである。(手紙 83, 1878 年)

3月24日

訓戒者であり友である

「いにしえの日を覚え、代々の年を思え。あなたの父に問え、彼はあなたに告げるであろう。長老たちに問え、彼らはあなたに語るであろう。」(申命記 32:7)

人生は航海のようなものである。わたしたちには嵐や晴天がある。しかし、わたしたちは目指す港に近づきつつあるということを心に覚えているべきである。わたしたちは、まもなく暴風雨と嵐を超えるであろう。わたしたちの現在の務めは「わたしは柔和で心のへりくだった者であるからわたしのくびきを負うてわたしに学びなさい」(マタイ 11:29)と言われる声を聞くことである。わたしたちはこの招きを日ごとに受け入れなければならない。過去はすべての事柄が書かれている本の中におさめられている。わたしたちは記録を消し去ることはできない。しかし、自分が選ぶならば、多くのことを学ぶことができる。わたしたちは過去から教訓を学ぶべきである。過去を訓戒者とするとき、わたしたちは過去をわたしたちの友とすることができる。わたしたちが過去において経験した不愉快なことを思い出すとき、それを繰り返さないことをそれから学ばなければならない。後悔を伴うようなことを続けてはならない。わたしたちは今、悪を避けることができる。わたしたちが生きている毎日は、わたしたちの歴史を作っているのである。今日はわたしたちのものである。昨日をわたしたちは修正したり制御したりすることはできない。だからわたしたちは、今日神の御霊を悲しませないようにしましょう。なぜなら、わたしたちは、明日になって今日の日を呼び戻すことはできないからである。今日という日は、あくる日には昨日になっているのである。…

イエス・キリストは感謝する者のために、豊かな恵みと助けを持っておられる。主はわたしたちの助け手である。許しは主と共にある。主のみが過去の罪を消し去ることができる。主は心を強めて下さる。もしわたしたちが、過去を自分の敵と思わず、近づくべきでない場所から離れるようにと警告してくれる友として考えるなら、過去は真実の友であることを示すであろう。…

わたしたちは、善をつかんで感謝し、そして、悪を避けているであろうか。神と共に謙遜に歩いているだろうか。…失敗したり、また失望したりしてはならない。そうすれば、今、コントロールのできない現在の働きも、将来にはわたしたちにとって、報いとなるであろう。…わたしたちが働くことのできるのはわずかな期間しかない。わたしたちは心配する心を養ってはならない。目を前方に保ち、イエス・キリストによって、わたしたちの高い召しの標準に目をじっと向けていなさい。わたしたちにはなすべき仕事がある。すべての行為を、天の全宇宙の人々の目の前でしているかのようにしなさい。気落ちしたり、不信仰につまずいたりすべきではない。神は、わたしたちが神を自分たちの力として見上げ、ご自分にあって自分が完全なものとなるよう努力することを望んでおられる。(手紙 66, 1898 年)

人生の義務を果たすこと

「すなわち、わたしたちのうち、だれひとり自分のために生きる者はなく、だれひとり自分のために死ぬ者はない。」(ローマ 14:7)

「神に対する、そしてわたしの友に対するわたしの人生はどんなものでしょう」と自分に問いなさい。だれ一人、自分のために生きているという人はいない。いかなる人生も中立の立場で生きているという人はいない。わたしたちの人生に関する認識は、すべての義の敵によって感化され、その重大性に気づいていないかもしれない。しかし…わたしたちは自分の責任を逃れて、将来の不死の生活に関係なく生きながら、なお神に対してまた友人に対して義務を行うことはできない。一人一人は人類という大きな織物の一部である。そして一人一人は遠くまで及ぶ影響力を持っているのである。わたしたちは、自分自身の力だけに頼って義務を果たすことはできない。自分たちの責任を果たすにあたって神の助けを得なければならない。そうすればわたしたちの感化は…キリストと共に増大していく。

時間や、能力、また感化というわたしたちのすべてのタラントは、神から与えられた。だから自発的な奉仕によって神に返されるべきである。神が与えられた人生の偉大なる目的は、地上の利益を確保することではなく、天の王国における永遠の特権を確保することである。主は、キリストの尊い血によって、わたしたちに属するすべてのものを買い取られた。だから主から、主のものを取ろうとするものは、最も悪質な盗賊的行為である。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 13 日)

わたしたちの人生は、わたしたち自身のものではない。わたしたちのものであったこともなく、またこれらかもそうはなり得ないのである。わたしたちにとって重要な質問は、わたしたちの人生は、主の生涯に織り込まれているかということである。…わたしたちは、魂を取り巻く雰囲気に対してさばきを受けることになるであろう。なぜならそれは命に関わる事柄であり、他の魂に善か悪かの感化を与えるものだからである。…

もしあなたがたが、神につながり、神を恐れ、神を愛し、神に従い、クリスチャンの人生がそうであるべき生きた模範を、世に与えているならば、あなたは神に対する、そしてあなたの友に対するあなたの義務を果たしているのである。あなたはあなたの人生において、全心に神を愛し、あなた自身のように隣人を愛するというのがどういうものであるかということを示すべきである。知恵と愛の神に結ばれているならば、あなたは、この世のために生きているのではなく、永遠のもののために生きているのだという事実を世に示すことになるであろう。(同上 1894 年 6 月 21 日)

3月26日

大望の最高の目標

「朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである。」(ヨハネ 6:27)

わたしたちは大望を持った人に、「クリスチャンになりたいならば大望を持つことをやめなければならない」と告げることはできない。神は、大望の最高の目標、すなわちしみのない白い衣、宝石で飾られた王冠、杖、栄光の座、そしてエホバのみ座にあるのと同じように持続する栄誉を彼の前に置かれる。人をこの世で成功させ、栄誉を得させるのに役立つ品性のあらゆる要素、すなわち何かさらに偉大な善に対しての抑えきれない願い、不屈の意志、熱心な努力、疲れることのない忍耐力などは押しつぶされるべきではない。これは残されるべきものであり、神の恵みによって他の水路に回されるように心に受けるべきものである。これらの価値ある品性の特徴は、天が地よりも高くあるように、世的な追及よりも、はるかに高く高貴な目的に活用され得るものである。

イエスは白い衣とどの君主もこれまで額につけたことのないほど豊かな栄光の王冠、また王子たちの栄誉にまさる称号を与えて下さる。キリストの奉仕にさげられた人生に対する報いは人間の想像が及ぶいかなるものよりもすぐれている。キリストは人に、熱心さやすぐれたもの、高められたものに対する望みを捨てるようにと呼びかけられはしない。むしろ主は彼らが滅ぶべき宝やうつろいやすい名誉を求めるのではなく、朽ちないものを求めることを望まれる。…

神は永遠の命のために努力している者が高く志すことを非常に喜びになる。生まれながらの品性の傾向は世的に賢く戦力的で、利己的な野心を持つ者になってしまう強い誘惑、また最高の価値を持つ救いをおろそかにして、富を集めることに熱中する強い誘惑を持っている。しかしどの誘惑も抵抗するならば、自己を抑えることによって貴重な勝利を得られるのである。それは力をイエスの奉仕に向け、信仰と希望とまた自制と忍耐を増す。…わたしたちは星で飾られた重い王冠を求めて、イエスの力の中に目標を立てることにしよう。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」(ダニエル 12:3) (レビュー・アソド・ヘラド 1881 年 10 月 25 日)

まくことと刈ること

「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。」(ガラテヤ 6:7, 8)

肉にまくというのはどういうことであろうか。それは、わたしたち自身の生まれながらの心の欲望と、性向に従うことである。わたしたちの告白がどのようなものであろうとも、もし神の代わりに自己に仕えているなら、わたしたちは肉にまいているのである。クリスチャンの生活は、自己犠牲と、十字架を負う生活である。わたしたちはイエス・キリストのよい兵卒として、困難に耐えるべきである。…わたしたちは自分に都合のよいものはなんであろうかと、問うことはできない。むしろ、わたしたちに命じられていることはなんであるべきかと、問うべきである。だれも、兵卒の生活は自己を喜ばす、自己満足の生活であると考えてる人はいない。わたしたちは今日、戦場において、そこで二つの大きな勢力が支配を争っているのである。…

あなたは、毎日の生活で何をまいているであろうか。あなたは自分の肉にまいているだろうか。あなたは自分の楽しみと、自分の利益だけを考えているのだろうか。誇りと虚栄と、野心のためにまいているのだろうか。…わたしはあなたに霊のためにまくようをお願いする。あなたが誘惑に抵抗するたびに、次の試練のために、霊にまく力をあなたに与えるのである。(ビュー・アズ・ヘラルド 1891年 5月 5日)

もしあなたが、キリストに対する従順を示しながら、信仰にまいているならば、将来の従順のために、信仰と力を刈り取る。もしあなたが他の人々に対して祝福となろうと思うならば、神はあなたを祝福される。…わたしたちが、他の人々に喜びを与えるならば、それは再びわたしたちに返ってくる。なぜならば、わたしたちはまくように刈るからである。…

信心深い生活を送りたいと願うすべての者が、わたしたちの聖なる贖い主イエスを通して、恵みと力を持つことができるように豊かな備えがなされている。クリスチャンの生活は、たとえ十字架を掲げ、重荷を背負ったものであっても、重荷と心労の生活であってはならない。なぜならば神のしもべたちは、自分たちの力の源から平和と力を引き出し、そうすることによって彼らは、幸福と平和に満ちた生活を見出すからである。…自分の生活のすべてが神にささげられていなければならない。なぜならば、わたしたちの尊い救い主は、決して二心を共有なされないからである。わたしたちの性向や欲望は神の御霊の支配の下になければならないからである。その時わたしたちは、信仰の良き戦いを戦うために強められるのである。わたしたちは毎日、隊長の命令は何であるかと問うべきである。(同上)

3月28日

いいかげんに扱うべきではない人生

「だから、わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである。」(ローマ 14:12)

神の祝福を受けた者として、理性の力、知性、判断力を持っているわたしたちすべては、神に対するわたしたちの責任を認めるべきである。神がわたしたちに与えて下さった人生に対して、神聖な責任があり、その一瞬といえどもいいかげんに扱うべきではない。なぜなら、わたしたちはさばきの記録の中において、再びそれに直面しなければならないのである。わたしたちの生活が天の書には写真家の感光板の上に写し出された写真のように、正確に記録されているのである。わたしたちは自分がしたことに対して責任を負うばかりでなく、わたしたちがしないで放っておいたことに対しても責任を負わなければならないのである。わたしたちは自分たちの成長しなかった品性に対して、またわたしたちが利用しなかった機会に対して責任を負うのである。…

キリストの学校であなたが貴重な人性教訓を学ぶのを妨げるものは、利己的な安楽を愛する心、快楽を愛する心、あなたのうぬぼれ、そして自分を高める心である。自分を形作るのを境遇や、環境によるものとししないで、天の型に従って、自分の品性を形造る上よりの境遇に生きることが、クリスチャンの義務である。たとえどんなところに置かれていようと、忠実でなければならない。人は忠実に、そして神から与えられた機会をうまく活用して、自分の能力のすべてをあげて、自分の義務を果たすべきである。…

もしあなたがキリストの中に住み、キリストの学校で学んでいるなら、あなたは無作法であったり、不正直や、不忠実であったりほしくない。キリストの十字架はあらゆる清くない情欲や、行為の根を断ち切る。あなたの仕事の性質がなんであれ、あなたの働きにキリストの原則を持ち込み、あなたの手に与えられた仕事に、自分自身を投ずるのである。あなたの関心は、あなたの雇い主の関心と一つになるであろう。あなたが自分の時間に対して支払いを受けるならば、働きのその時間は、あなた自身のものではなく、そのためにあなたに支払う人に属するものであるということを知るのである。もしあなたが不注意で、そして放縱で、材料を浪費し、時間をむだに使い、労することを惜しみ、勤勉でなければ、あなたは不忠実なしもべとして、天の書に記録されるのである。…「忠実、節約、注意、徹底性があなたの仕事のすべてを特徴づけるべきである。…」「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である」(ルカ 16:10)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1891年9月22日)

主のご品性に従って形作られること

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

もしある人が、人間の不完全から目を離してイエスを見つめるならば、天の変革が彼の品性の中におこる。彼は、神の栄光を反映する鏡を見るように、自分の目をキリストにじっと向ける。そして、見つめることによって、彼は、霊なる主の働きによって、栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられていくのである。…

あなたの目を他の人々の不完全さから離して、キリストをしっかり見つめなさい。悔い改めた心で、主のご生涯とご品性を学びなさい。あなたは、もっと啓発されるだけでなく、あなたの前にある豊かな食卓を見、み言葉である神のみ子の肉と血を食べ、飲むことができるようになります成長する必要がある。命のパンを食べながら、命の言葉の良さを味わうことによってあなたは、きたるべき世界の力を見ることができるようになり、キリスト・イエスにあつて新しく造られるのである。もしあなたが、主の賜物を受けるならば、あなたは聖なる者に新しくされ、主の恵みは、あなたのうちに神の栄光に至る実を結ばせて下さるのである。

聖霊は、キリストを人の心に示し、信仰は主をしっかりと捕らえる。もしあなたがキリストを、あなたの個人的な救い主として受け入れるならば、あなたは経験によって、あなたのためにカルバリーの十字架の上でなされた偉大なる犠牲の価値を知るであろう。心に働いているキリストの霊は、主のみ姿に心を形作る。なぜならキリストは、聖霊がそれによって働かれる原型だからである。神はご自分のみ言葉の奉仕によって、またご自分の摂理によって、ご自分の内的な働きによって、魂にキリストのみ姿を刻印して下さるのである。

キリストを所有することがあなたの最初の仕事である。そして、キリストを、この方に来る者はだれでも完全に救うことができる方であると示すことが、あなたの次の仕事である。心に堅く決心して、主に仕えるということは、聖なる事柄をよく考えることによって、また主の聖なる言葉の中に現わされた命の真理に、心が満たされることによって、主の名をあがめ、栄光を帰すことである。…

善意、柔和、親切、忍耐、そして愛は、キリストの品性の特性である。もしあなたがキリストの精神を持っているならば、あなたの品性は主の品性に従って形造られる。(手紙 74,1897 年)

3月30日

天を喜ぶ方法

「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

わたしたちに、豊かな約束を与えようとする神のご計画は、使徒ペテロによって述べられている。それは、わたしたちが、「神の性質にあずかる者となるためである。」わたしたちは、地上的な、世的な好みを、神のそして、天の好みに変えなければならない。天国は、もしわたしたちの好みや、わたしたちの瞑想や、わたしたちの性質が、キリストのようでなかったならば、あなたにとっても、わたしにとっても天国とはならない。キリストが、ご自分の子らのために、用意に行かれた純潔な天の住居は、贖われた者だけが、自分たちの心の中に働く恵みによる内部の働きによってのみ、その住居にふさわしい者となるのである。それによってその住居の価値を認めることができるものなのである。

わたしはあなたに、天の祝福、勝利者のために置かれた王冠、キリストの義である白い麻布、勝利のしゅろの枝、黄金のたて琴を描写したいと思う。しかし、こういったものだけで、天国は、わたしたち一人一人にとって、祝福の場所になるのではない。これらのものがなくても、もしわたしたちが清い、そして聖なる品性を持っているならば、わたしたちは幸福である。なぜならば、わたしたちはイエスと、その方の愛を持っているからである。純潔で、罪がなくキリストのご品性と一つになっているならば、天は喜ばしい所である。わたしたちの能力は強められ、すべては調和を保つ。完全な祝福は、キリストが至上権を持って治められる心の中にのみ宿ることができる。

キリストは、わたしたちの世界に死ぬために来られた。正しい方が不義なるもののために…それは、主が男女を高め、高貴にされて、主の神聖なる姿を彼らの上に刻印しようとされたからである。このために、主の御霊は、さらに進んだ活力と霊的生活の完全さが存在するように、わたしたちのために、共に働かれるのである。(手紙 4, 1885 年)

わたしたちは一つの罪深い傾向を持ち続ける必要はない。…わたしたちが神の性質にあずかる時、悪に対する先天的、後天的傾向は品性から切り取られ、そしてわたしたちは、善に対する生きた力とされるのである。天の教師について常に学び、日々主の性質にあずかる時、わたしたちは、サタンの誘惑に勝利するために神と協力するのである。神が働き、人間が働く。そして人は、キリストが神と一つであるように、キリストと一つになることができる。その時、わたしたちは、天国において、キリストと共に座る。心は、イエスにある平安と保証で安らぐ。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 943)

すべての危急に対する備え

「わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、」（ヘブル 2:3）

救いの創始者は、どんな不完全さをも、ご計画の中に残されなかった。救いのあらゆる段階が完全である。全世界の罪は、イエスの上に置かれた。そして神性は、全世界がキリストの身代わりを信じることによって許されるために、イエスにある人性の苦しみにその最高の価値を与えられた。最も罪深い者も、神は許されるであろうかと恐れをいだく必要はない。なぜなら神聖な犠牲の効力のゆえに、律法の刑罰は許されるからである。キリストを通して、罪人は神に対する忠誠に戻ることができる。

救いの計画は、その単純さと、その完全さにおいてなんとすばらしいものであろう。それは罪人に対して、完全な許しを提供するばかりでなく、また罪人の回復のために提供されている。それによって、人は神の子として受け入れられるのである。従順を通して、人は愛と平安と喜びの所有者になる。彼の信仰は、その弱さのまま、彼を、天の源であられるキリストに結びつける。そして、キリストの功績を通して、神の是認を見出すことができる。なぜならキリストは、律法の要求を満たし、悔い改め信じる魂にご自分の義を着せて下さるからである。…

なんという愛、なんという素晴らしい愛が、神のみ子によって示されたことか。…キリストは、罪人を最低の墮落した状態から取り上げ、清め、洗練し、高貴にされる。主があられるように、イエスを見つめることによって、罪人は改変され、気品の最も高い頂に高められ、ご自分のみ座におられるキリストと共なる席にまで高められるのである。…

贖罪の計画は、あらゆる危急に対してそして魂のあらゆる欠乏に対して提供される。もしそれがなんらかの点において不完全であったならば、罪人は、その条件の軽視に対して、弁解するなんらかの口実を見出すかもしれない。しかし、無限であられる神は、人間のあらゆる必要を知っておられ、豊かな備えによってあらゆる必要を満たして下さったのである。…そういうわけで、罪人は、最後のさばきの大いなる日に、なぜ、こんなに徹底的で真剣な、自分に提供された救いに関心を払うことを拒んだか、それに対してなんの申し開きができるであろうか。（レビュー・アポ・ヘラルド 1891年3月10日）

研究 11

神の憐れみの最後の招き



「地はその栄光によって」

第三天使の大いなる叫びに加わるもう一人の御使は、その栄光で全地を照らすとあります。それはどのようにして可能なのでしょうか。

地はその栄光によって明るくされた

「モーセは言った、『どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください』。主は言われた、『わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ』。また言われた、『しかし、あなたはわたしの顔を見ることはできない。わたしを見て、なお生きている人はないからである』。そして主は言われた、『見よ、わたしのかたわらに一つの所がある。あなたは岩の上に立ちなさい。わたしの栄光がそこを通り過ぎるとき、わたしはあなたを岩の裂け目に入れて、わたしが通り過ぎるまで、手であなたをおおうであろう。そしてわたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は見ないであろう。』」(出エジプト記 33:18-23)。

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ローマ 3:23-)

栄光の衣を着ていた人類が罪を犯したとき、栄光を失っただけでなく、その栄光を見ることさえできなくなりました。しかし、この栄光が全地を照らさなければなりません。そこで、モーセの嘆願に答えて下さった時と同じように、このお方の栄光は、恵みというかたちで表されました。

「すべての人を救う神の恵みが現れた」(テトス 2:11)。

「それで今、わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、どうか、あなたの道を示し、あなたをわたしに知らせ、あなたの前に恵みを下さってください」(出エジプト記 33:13)。同様に 12,16,17,19 節にも恵みとして表されています。

「そして主は言われた、「見よ、わたしのかたわらに一つの所がある。あなたは岩の上に立ちなさい。わたしの栄光がそこを通り過ぎるとき、わたしはあなたを岩の裂け目に入れて、わたしが通り過ぎるまで、手であなたをおおうであろう」(出エジプト記 33:21-22)。

「モーセが神の栄光を見たのは、彼が岩の裂け目にかくれたときであった。わたしたちも裂かれた岩なるキリストの中にかくれるときに、キリストはご自分の裂かれたみ手をもって、わたしたちをおおってくださいるのである。そして、わたしたちは、主がそのしもべたちに言われることを聞くことができるのである。神は、モーセにあらわされたと同じように、わたしたちにも、「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者」としてご自分をあらわしてくださいるのである(出エジプト記 34:6, 7)」(キリストの実物教訓 143)。

このように人が見ることができるよう現れた恵み、すなわち肉で覆われた神の栄光は、ただ霊によつてのみ見分けることができます。

「霊的な事物は霊的に見わけられる」(各時代の希望上巻 42)。シメオンは聖霊のお告げがわかりました。彼の証がそのことを表しています。

「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりこの僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救を見たのですから。この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光であります」(ルカ 2:29-32)。

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまことに満ちていた」(ヨハネ 1:14)。

では、どのようにして、この栄光が全地を照らすようになるでしょうか?どのよ

うにして、わたしたちのものとなるのでしょうか？

「彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり」（ヘブル 10:20）。

『わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である』。…『この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができるのか』。…『よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない…わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる』。（ヨハネ 6:51-56）。

「キリスト（神）は肉において現れ」（テモテ第一 3:16）。

「このお方はわたしたちをその愛する御子のうちに受け入れて下さった」（エペソ 1:6 英語訳）。

「天は人間のうちに宿り、人間は限りない愛の神の胸にいだかれている」（各時代の希望上巻 12）

わたしたちは、この限りない神の愛を見なければなりません。神の栄光は恵みとして与えられているのです。

栄光が表されなければならない -

このお方のご品性、このお方の義を通して

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた」（ヨハネ 1:14）。

御使たちは神のためにメッセージを伝え、神のために行いをなすことはできましたが、神であることによって神の義を表すことができたのはただ神の御子であられました。

人のあいだにおられたご生涯において、キリストは律法によって定義された義となられました。

「律法はモーセをとおして与えられ、めぐみとまこと〔めぐみと現実〕とは、イエス・

キリストをとおしてきたのである」(ヨハネ 1:17)。

単なる法典だと思われている律法においては、わたしたちは真理のかたちを持っているだけですが、キリストは真理であられたのです。

「律法は義すなわち正しい生活、完全な品性を要求する。…けれどもキリストは、人としてこの地上においでになって、聖なる一生を送り、完全な品性を発達させられた。これらのものを、キリストは受け入れる人にはだれにでも無料の贈り物として提供される。キリストの一生は人の一生の代りとなる。こうして人は、神の寛容によって、過去の罪をゆるされるのである。のみならずキリストは、人のうちに神の属性をうえつけてくださる。キリストは人の品性を神のご品性にかたどって、霊的な力と美しさを備えたりっぱな織物としてくださる。こうして律法の義そのものが、キリストを信ずる者のうちに成就されるのである。「神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである」(ローマ 3:26)。」(各時代の希望下巻 288, 289)。

「キリストの義である品性の白い衣」(アドベンチスト・ホーム 597)

「この麻布の衣は『聖徒たちの正しい行いである』と聖書にしるされている(黙示録 19:8)。…キリストの義であり、キリストご自身の汚れのないご品性である」(キリストの実物教訓 290)

最後の働きをなし遂げる主の霊が、シメオンやモーセのように、わたしたちにもこの真理を見させて下さいますように。

か。わたしをさがしているなら（ご自分の弟子たちを指して）この人たちを去らせてもらいたい」（ヨハネ 18:7, 8）

この試練の時に、このお方の思いはご自分の愛する弟子たちのためを考えておられました。このお方はご自分が獄と死に向かわなければならなくても、彼らを苦しめたくなかったのです。

裏切り者のユダは、自分の果たす役割を忘れていませんでした。彼はイエスさまのもとに来て、そしてこのお方に接吻（せつぶん）しました。

イエスさまは彼に言われました「友よ、なんのためにきたのか」（マタイ 26:50）。このお方はふるえる声で「接吻をもって人の子を裏切るのか」とつけ加えられました（ルカ 22:48）

これらの優しい言葉はユダの心に触れるべきでした。しかしすべての優しさと誉（ほま）れは、彼から去ってしまったかのようにでした。ユダはサタンの支配に自らを明け渡していました。彼は主の前に大胆に立ち、そしてこのお方を残忍な暴徒に引き渡すことを恥じていませんでした。

キリストは裏切り者の接吻を拒まれませんでした。ここに、このお方は寛容、愛、あわれみの模範をわたしたちに残されました。もしわたしたちがこのお方の弟子であるなら、わたしたちはこのお方がユダを取り扱われたように、自分たちの敵を取り扱わなければなりません。

レモンゼリー

■材料

(A)

レモン汁	2 個分
はちみつ	1/2 カップ
片栗粉	1 カップ
水	5 カップ
レモンピール	適量

(B)

小麦粉	2 カップ
ココナツフレーク	1/2 カップ
サラダ油	1/3 カップ
粗糖	大さじ 2
塩	少々
豆乳	大さじ 2

■作り方

1. 材料 B をボールに入れて、よく混ぜます。
2. それをパイ皿に入れて底に伸ばし、フォークで穴をあけてから、180 度のオーブンで 15 分ほど、きつね色になるまで焼きます。
3. 材料 A を鍋に入れて、火にかけます。
4. 固まってきて、透明になったら、パイ皿の上に流し込みます。
5. 上にレモンピールをかざって出来上がりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第36話

裏切りと逮捕(1)

このお方が裏切り者に会うためにふみ出されときには、さきほどまでの苦しみのおあとは見られませんでした。ご自分の弟子たちの前に先だって立ち、暴徒(ぼうと)たちにおたずねになりました。

「だれを捜(さが)しているのか」

彼らは答えました「ナザレのイエスを」。

イエスさまは「わたしが、それである」と応じられました(ヨハネ 18:4, 5)。

イエスさまがこれらの言葉を語っておられると、さきほどまでこのお方に仕えていた天使が、このお方と暴徒の間に入りました。神聖な光がこのお方のお顔を照らし、そして、はどのようなかたちをしたものがこのお方をおおいました。

この神聖な栄光の前に、人殺したちは一瞬も立っていることができませんでした。彼らは後ろによろめきました。祭司も、長老も、兵士も死人のように地面に倒れました。

天使がしりぞくと、光は消えました。イエスさまは逃れることもおできになりましたが、このお方は静かに冷静に残っておられました。このお方の弟子たちは驚きのあまり、一言も口にすることができませんでした。

ローマの兵卒たちはすぐに立ち上がりはじめました。祭司やユダと共に、

彼らはキリストの周りに集まっていました。彼らは自分たちの弱さを恥じ、このお方が逃げるのではないかと恐れているようでした。もう一度あがない主(ぬし)がだれを捜しているのか」と質問(しつもん)なさいました。

また彼らは「ナザレのイエスを」と答えました。そこで救い主は言われました。「わたしがそれであると言ったではない



(45 ページに続く)